

## 令和3年度 音楽科 授業改善推進プラン

	授業改善のねらい	具体的な授業改善策	評価 (○成果 ▲課題)
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○器楽では反復練習、階名唱に慣れ、音の高低を聴き分けられるようにする。</li> <li>○歌唱では発声に伴う姿勢の徹底、口形や音程、表情を意識するようにする。</li> <li>○音名や記号に関する知識、拍感や拍子による表現の違いを感じ取れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運指に注意が必要。個人差があるので、短い旋律を数多く、繰り返し行う。</li> <li>・そろった音程と姿勢や口形などを舞台発表への意識とともに高めていく。</li> <li>・楽譜に触れる時間を増やし、興味をもたせる。身体表現を行う。</li> </ul>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーの奏法に慣れ、階名唱、繰り返し練習を行いスムーズな運指ができるようにする。</li> <li>○歌唱では曲想に合った発声を行い、2部以上の音を重ねられるようにする。</li> <li>○音名や記号に関する知識、拍感や拍子による表現や、音色の違いを感じ取れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1音1音確実に覚える工夫として、CDに合わせてたり、よく知られた曲を使ったりして楽しく反復練習を行う。</li> <li>・カノン、パートナーソング、部分二部はできるので、3度の音感を養う。</li> <li>・楽譜の音の並びから、旋律及びリズムの繰り返しを読み取るように言葉かけを行う。</li> </ul>	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーは、タンギングや両手の運指を覚えて、演奏ができるようにする。</li> <li>○歌唱では鼻濁音の習慣化、歌詞の内容を理解して歌えるようにする。</li> <li>○高音部と低音部の読譜力を身に付け、曲想に合った表現や、音色を意識した演奏ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音数が増え、サミングも入るので更に個人差が広がる可能性が高いことを鑑み、指導に当たる。</li> <li>・歌詞と旋律との関係性から読み取った表現理由を意識させていく。</li> <li>・へ音記号読みは合奏に必要なので、読み方を確実に押さえさせる。</li> </ul>	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーの演奏を踏まえ、他の楽器を重ねて合奏が行えるようにする。</li> <li>○歌唱では整った音色、発音を意識し、感情豊かに表現できるようにする。</li> <li>○音名、リズム読み、繰り返し記号に慣れ、表現に伴う変化や工夫ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーは基本を徹底し、他の楽器は特性を生かした合奏にする。</li> <li>・歌詞の内容を読み取り、表現の仕方を個々に考える時間を取る。</li> <li>・歌詞と旋律に伴う強弱や速度、リズムの変化を読み取る意識をさせる。</li> </ul>	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの楽器の特徴を理解し、曲想をとらえた合奏ができるようにする。</li> <li>○歌唱では既習事項を踏まえた上で、成長に伴った発声や声部を工夫する。</li> <li>○音名、リズム読み、繰り返しやその他の記号に慣れ、表現に伴う変化や工夫ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽鑑賞等で楽器の特徴や音色を聴き取り、器楽演奏に生かせるようにする。</li> <li>・指揮から体表現を学習し、言葉の発し方など根拠を言語化して、伝え方を具体的に考えさせていく。</li> <li>・中学校の内容も見越して楽典の基本的なことは使いながら覚える。</li> </ul>	